

KSKP

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ ニュースレター Vol.19

Threshold

～すれっしょんど～(出発点)

神戸薬物・アルコール依存リハビリテーションセンター

スレッシュホールドとは、新たな出発点、飛び立つ場所という意味です

Drug Addiction Rehabilitation

DARC**誰のためでもなく For No One**

薬物を使っている頃、やめられない頃、当然非日常な状態なのですが、回復の初期というもの、実際には、非日常なものです。今まで私たちがしたことがない生き方の始まりだからです。よく12ステップで「狂気」とは、「同じことを繰り返しているにもかかわらず、違う結果を毎回期待すること」と言う例えがありますが、私たちの回復の始まりは、そのパターンがなし崩しにバラバラにさせられるものです。いつも困ったら金をくれる親は、そこにはいません。一緒に薬を使うための計画を練ってくれる親友も、そこにはいません。あるのは、現実の自分自身と、なんとか今日一日薬を使わずに生きている仲間たちです。これは、私たちの薬物ありの生き方からすると、あまりにも非日常的すぎます。私自身、13年前には、茨城ダルクの周りの田んぼで30分の犬の散歩が、地獄のように苦しかったです。「犬の散歩」が地獄のように苦しかった。と言う経験は、一般の人には決してわからないと思います。ですが、私たちの仲間は、それがどれだけ大変だったか、よくわかっています。それに、そんなことをわかってくれる仲間の存在も、私たちにとって最初は非日常的なものです。だって、私にはクスリしか、自分を守ってくれるものはなかったのですから。そんな非日常が、いつの間にか日常に変わっていきます。私は、そのプロセスこそが、人生で1番にかけがいのない経験だと思える今日があります。

回復のレシピは、私たち一人一人が作っていきます。誰のためでもなく。

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 代表理事 梅田靖規

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

自立訓練(生活訓練)神戸市障害福祉サービス事業所 デイセンター リカバリー

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741 e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

神戸ダルク**検索**

新型コロナウイルスと神戸ダルク

代表理事 梅田靖規

表紙の話に続けて書かせていただきます。新年度 2020 年の幕開けは、全く先の見えない始まりになりました。世界中の流通が止まり、国境は閉鎖され、地域によっては何百人もが亡くなっていく。この 2 ヶ月、最初のうちは、いつものように何か問題が起きると、必ず起こる垂れ流しの批評をシャワーのように浴びて記事を見てきました。これは新型コロナウイルス（以下 COVID-19）であっても、依存症に対してのコメントであっても、何も変わりがなく、うんざりしていました。ですが、事情が深刻になってくると、周りで起こってくることも変わってきます。危機管理能力の私たちの低さから来る致命傷も自覚するばかりです。

実際の神戸ダルクでは、私たちにできる範囲の COVID-19 対策をして、仲間同士、いつもと違う感染症対策を徹底した日々を過ごしております（3/26 現在）

周りでは、こんな私たちがとる対応を被害妄想的に批評する声も聞こえました。その声が、俗に言う依存症のことをわからない人が、好き勝手なことを言う TV のコメンテーターと同じく滑稽に感じたのは、私だけなのかもしれません。

と言うのも、私たちが施設全体として動きを変えたのは、あることからでした。

昨年の中頃です。60 歳で還暦を迎えた仲間が、調子を崩し、肺炎になり非常にヤバイ状況になり、ヘリコプターで運ばれて一命を取り止めました。私の恩師も昨年、肺炎で亡くなっています。そのことが頭をよぎりました。仲間が助かったときに、全員が歓喜を上げて喜んだのを思い出します。

また、私はこの COVID-19 問題が、まだまだ遠い中国だけの話と思われている 2 月の前半に、大きな決断に迫られていました。自助グループの予算を使って、アジア会議へ向かわなければならませんでした。できるだけ経費を使わないようにと全体で話し合われていたもので、取った航空券はキャンセルできません。その頃は今とは状況が違うので融通は利きませんでした。私自身、アレキシサイミアというか、危険予知能力が昔から欠落しているので、独り身で一人の渡航でしたら、なんの迷いもありませんでした。片方の背中では、勝手に日の丸を背負い、もう片方では家族を背負っている自分がそこにはいました。正直、決断ができず、東京での会議の後に、すぐ近くの赤羽カトリック教会で、一心不乱に祈っている自分がいました。久々に、自分自身で判断ができませんでした。というのも、こんな気持ちになったのは初めてだし、世界各国の代表たちが棄権をしていくことを伝える次々とくるメール見ながら不安を感じていると、通訳の仲間から電話で「どちらにしてもウメちゃんに何かあったら俺は一生後悔する」という言葉をもらい、その後にその仲間を通じてハワイの現在闘病中のかげがえのない仲間が「あなたたちにアジア会議に行きたくない。あなたたちはまだまだたくさんやることがある」という言葉をもらい、自分に決心がつけました。結果として、会議の役員の努力で、テレビ会議を使った会議が行われました。

それからです。世界中、また日本でもどんどん状況が悪化していきました。私の仕事が 100% 中止になりました。講演、セミナー、ワークショップなどなど、私の仕事がいつの間にか、そういう仕事に変わっていたことにも気が付きましたが、100% 仕事が無くなって、ダルクのイベントも、太鼓の練習も、タコス屋も、全部全部、無くなりました。その中で、「コミスタ祭り」という震災で失った命、命や健康を大切にしようというイベントで、エイサーとタコス販売を予定していたのですが、運営委員の方々も、非常に悩んでおりました。私は、ここに書いたようなことを、メールで送りました。返ってきた返事は「中止にします。苦しみを解いてくれるようなメールありがとうございました」ということでした。今回の COVID-19 問題で、私たちだけでなく、多くの方々が予期せぬ事態で判断に苦しみ決断してきたし、今でもそうだと思います。自助グループの会場を閉めることで罪悪感を感じる仲間もいます。そんな仲間を支えることが私の今の役割だと思っています。

現在、神戸ダルクでは、人と接触していないスタッフで仲間と過ごし、畑作業中心です（畑は人と接する機会が少ない）ストレスがたまらないように配慮してもたまります。

ですが、さすが仲間全員アディクト。大きな寮の中で過ごししながら、料理に力を入れる仲間もいて、全員がいつも以上にヘルシーでおいしい食事を取れたりしています。また、何よりも、私が仲間と過ごす時間が格段に増えました。オンラインで自助グループのミーティングを開けているので、その調整をしたり、なんだかんだ言って、毎日ミーティングに出ていますし、施設内での、グループワークでも、僕が持っているワークなどを計画的に提供できています。正直「これが本来のやりたい姿だよな」と再認識している自分がいます。瞑想したり、来週は寮の中で、エイサーのエア練習でも始めようと考えたり、毎週六甲山に登る計画も立てています。薬をやめているアディクトはしぶといですね。

そんな日々を過ごしています。これからどうなるかわかりません。何よりも、私は仲間の健康を守る船長です。舵を握っている以上、スタッフと協力して、仲間を守ります。タコス屋を楽しみにしてくれていた支援者の方々からの問い合わせや、研修会、勉強会、なども楽しみにしていた方々からの問い合わせ、本当に嬉しかったです。ですが、非常に残念に思います。COVID-19 問題が収束に向かい、また、タコス屋もエイサーの依頼も再開しますので、連絡をお待ちしています。勉強会やセミナーもできなかった分は、行っていくしますので、皆様応援をよろしくお願いします。

また、この期間に、支援者の方々と話す機会が色々ありました。ダルクの使えるところ。それは「男手が足りないとき」には、私たちは割と役に立ちます。小さなイベントの設置や、何かの撤去などできる範囲でお手伝いさせてください。気軽にご連絡ください。

来年のコミスタ祭りも開催決定と連絡を受けました。夏に向けて、啓発フォーラムも数カ所で予定していますし、9 月には、神戸ダルク初の「リカバリーフェス」を開催します。皆様の健康を心より祈念しております。公衆衛生、健康、私たちダルクは本来そのことを真っ先に考えていかなければならない団体であると再確認しました。

私の体験談

アディクトのジン

初めましてアディクトのジンです。今回は僕が 15 歳の時に薬物を覚えた時から現在に至るまでの事を文章にしようと思います。僕は 15 歳の時に悪友から勧められ最初、覚醒剤を見た時にはまだ子供でしたので、恐かったのですが「一回位良いだろう」という気持ちから勧められるまま注射しました。ところがこれが、毛は逆立ち電流が走るといふ事なんとも言えない快感でした。それからというものとにかく何よりも三度の飯よりも家族の事も帰りみず転落の一步でした。

とにかく薬のあるひと、場所以外には近寄らないという日々が四年ほど過ぎた時最初の逮捕で二か月間留置所に入りその後執行猶予で釈放されるも一ヶ月で二度目の逮捕そして当然の事、懲役二年四か月の判決を受けました。刑務所に入所しても反省する事もなく中で覚醒剤をもっと手に入れる事に執着して、その仲間と社会で再会して今度は薬を売りさばき自分の分を手に入れるという事になりました。

僕は最初の服役中に両親が他界していますし、唯一妹がいるのですが服役中に「お兄ちゃんが刑務所にいるので結婚します、幸せになります」という最後の手紙が来ていたのです。当然薬を使う前の親友等は全員離れている状態であるのも気付かなかった最低な人間でした。それからというもの車の窃盗、覚醒剤の営利等五回の服役を繰り返してきました。その中では反社会的集団に加入していた時もありました。五回目



の逮捕で拘置所に在所している時に「自分一人では薬をやめられない」と思っていた時に神戸ダルクのパンフレットとニュースレターに目にした時「これだ」と思い半信半疑で手紙を書きました。返信してくれた内容は僕が思っていた以上の事が書かれて「本当にやめたいのですか」と書いてあり当時僕は四十四歳でしたしそろそろ思っていたので、自分の正直な気持ちを書いたのです。それから神戸ダルクの代表である梅田さんが遠い所面会に来て頂き、その後二年九か月京都刑務所に服役するのですが、必ず月に二・三回手紙をくれて面会も三・四回来て頂きいつも最後に「安定していますか」と気を使った温かい言葉をかけて貰いました。代表の体調が悪く入院している時、又出張で忙しい時でも必ず手紙を頂き「ダルクは幸せになる所」という言葉が僕の心にさりました。出所一か月前なのにわざわざ面会に来て頂き本当に感謝の気持ちで一杯です。昨年 12 月 9 日に出所した時には荷物を持つ私を門の中まで来て荷物をもってくれたタカちゃんとヒロさんという仲間と一緒に社会に出ました。

車に乗った瞬間代表が「おかえり」とジャガイモのような手で握手されたときには「助かった」と思いました。出所した初日はシモさんと温泉に行き色々な話をし安楽としました。次の日にプログラムの畑の作業をして疲れましたが、生まれて初めて必要とされ夜ミーティングの時には勝手に涙が出ていました。あれから三か月が過ぎましたが、出所してダルクにつながった時の事をミーティングで話したりする時には涙が出ます。それから忘年会、クリスマス会、年越しとありましたが、薬を使っていた時にはしなかった事、味わえなかった事をしながら毎回感激しながら生活しています。最初は自転車を通う寮でした。俗に言う我慢坂を行ったり来たりでしたが、今は片道三十分掛かる寮です。寮には、苗を育てるビニールハウスが三体あり、苗床作りから作物、収穫するまでの過程をして、僕には子供がいなかったので分かりませんでした。自分が蒔いた種が芽を出したりした時には自分の子供が生まれた様に嬉しかったです。正月のおせち等は代表の奥さん、ユウさんの手作りおせち料理や他に鍋をして、山登りをしたりして今は薬の事を考える時間はありません。出所した時には体重が 73 kg ありましたが今は 97 kg です。代表の奥さんや双子やシモさんの娘さんとか行事がある度に来て皆でワイワイ日々を送っています。最近ではコロナの件で外出制限がありますが、畑が好きですし畑に行く回数が多いので僕はストレスとかありませんが、他の仲間はストレスがあると思います。安定するまで頑張りましょう。最後に群馬ダルクのショーンさん、ぷーさん、クリーンタイム三か月でキータッグ貰いました。これも一重に施設長始め仲間のお陰だと思い感謝しています。いつまでもクリーンでいられるように頑張ります。



2019 年度神戸ダルク助成事業への感謝 ありがとうございました



刑務所を出所した依存症者の年越し支援と依存症回復者との年末交流事業

社会で家族のような年末年始を過ごすことは、回復に非常に役立ちます。みんなでおせち料理を作り交流会などを経験させていただきました。

NHK 歳末助けあい助成事業様



兵庫県内における薬物依存症者家族会の開催事業

毎月第4日曜日に神戸市勤労会館にて、ゲスト講師を招き、依存症者家族会を開催いたしました。家族の居場所作り、そして家族の不安と苦しみを取り除く家族会が12回開催できました。

公益財団法人俱進会様



虐待された子供と薬物依存症者の関係性の研究及びその回復支援活動の基盤づくり事業

幼少期の私たちの問題と、依存症、そして依存症の回復について、回復が進んだメンバーへのインタビュー、アンケートを通じて多くを学びました。報告会はコロナウィルスの影響で開催できませんでしたが、4月以降にもう一度開催予定です。2020年度もトラウマインフォームドケアに関して活動させていただきます。

有園博子基金 ひょうごコミュニティ財団様

依存症セミナーin 神戸

毎年ですが、神戸市内で依存症セミナー開催をサポートとしていただいております。2019年度は、支援者向け、家族向けセミナーの2回を開始いたしました。一般の方の参加者が少しずつ増えてきました。

**神戸市社会福祉協議会
フェスピック事業助成様**



依存症者の利用する寮のエアコン購入
新しく開設予定のグループホームの各
部屋にエアコンを設置していただく支
援をいただきました。快適な環境で回
復に集中することができるので、仲間
一同喜んでおります。

愛恵福祉支援財団様



刑務所を出所した薬物・アルコール依存症の知的障害者の就労のための農業支援プロジェクト

神戸ダルク所有の畑にて、有機野菜栽培及び畑リトリートと題しての休憩所的なものを設置、現在みんなで設置作業中です。

LUSHJAPAN
チャリティバンク様



依存症を持つ知的障害者のための就労場所作りのための技術習得研修およびPR事業
障害のある依存症の方へ、就労の練習として、畑での作業体験、キッチンでの接客マナー体験、とれたて野菜のBBQなどを経験してもらうことができました

**神戸市社会福祉協議会
清水事業助成様**

依存症
11/4(月・祝)

西村直之

DARC

神戸ダルク3周年記念フォーラム
11/23(土)

DARC

**神戸ダルクヴィレッジ
出張無料家族相談室**
ギャンブル・薬物・アルコール等の問題でお困りの方

DARC



関西圏域でのパチンコ・パチスロ依存問題の相談支援事業

関西圏域において、これまでギャンブルの支援やセミナーなどが、あまりなく、多くの方に依存症のことを理解していただくために、様々な新しい事業をさせていただきました。出張無料家族相談や神戸ダルクフォーラムの開催でも、多くの方に知っていただくことができました。第一に、ギャンブル依存の相談が非常に多く、地域の見えないところでの支援の基礎を作ることができました。

全日本社会貢献団体機構様



お知らせ

5月1日より
グループホーム
「リカバリーホーム」
が開設します



活動報告

2019 年 2 月

NA ワークショップ参加
加東市立三草小学校講演
神戸ダルク新年会
東播磨地区保健部長会講演
明石市長面談
保護観察所連絡会議
ベイコム DVD 撮影
多摩精神保健福祉センター訪問
茨城県依存症回復支援協会見学
ソーシャルキッチン タコス販売
関西国際大学学生さん 14 名来訪
依存症セミナー in 大阪開催
NHK 面談取材
兵庫区生活保護来所
有国博子基金選考委員会参加
薬物依存症施設職員研修参加
養父保護司会講演
神戸保護観察所引受人会講演

アゲインファーム ボランティア 月2回

垂水病院メッセージ 毎月第3火曜日

垂水病院スマーブ 毎週金曜日

神戸保護観察所スマーブ講師 毎月1回

神戸ダルク家族会 毎月第4日曜日

明石保健所家族相談 毎月1回

出張家族相談月2回



近況報告・活動予定

この先どうなっていくかというのが分からないこの現状ではありますが、春になっていることを、コロナ問題で、忘れていたかもしれません。今年も無人島キャンプもあります。ログハウスもあります。夏に向けて楽しい回復イベントが目白押し。と言いたところですが、早く問題が解決して欲しいです。ダルクの遊びのイベントも多いですが、啓発フォーラムなども詰まっています。晴耕雨読という感じで、それぞれがそれぞれを活かし、協力しあって、何かを成し遂げる一年になればと思います。次号では、リカバリーホームのお知らせができそうです。

神戸ダルク ヴィレッジ広報誌「Threshold」 年間購読のお願い

この広報誌「スレッシュホルド」の年間購読のお願いです。障害者低料第三種郵便物の取得が遅れており、皆様をお待たせしてしまいましたが、漸く第三種郵便物の取得ができました。年間購読費は年6回発行で2000円になります。お申し込みはFAX、電話、メール、または同封の振込用紙にてお願いいたします。お申し込みの際は「住所・氏名・電話番号」を必ず明記ください。

※ 配布用に、当ニューズレターを置いていただければ幸いです。たくさんの方に読んでいただけるように希望数を郵送いたします。私自身もこのような広報資料を見つけたことがきっかけで回復の場所を見つけることができました。ぜひ、まだ苦しむ依存症者の助けとなるようにご協力ください。

支援会員のお願い

神戸ダルク ヴィレッジでは、支援会員として、活動を支えてくれる方を募集しています。

兵庫県の薬物依存症者を助ける活動をご支援ください。
個人会員は1日 3000円(ニューズレター定期購読料を含む)からになります。 刑務所内の方々との文通による支援のための切手代などに使わせていただきます。

ご連絡をお待ちしています。

領収書希望の方は一言ご記載ください

神戸ダルク ヴィレッジ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail: kobe.darc@gmail.com

電話相談 来所による面談 メール相談

相談の内容に関する秘密は厳守します

逮捕・勾留中の方々への支援

刑務所・拘留所・留置所への面会、手紙などによる逮捕者及び保釈中の方への裁判での情状証人出廷や、刑務所出所者への薬物からの回復を希望する方の引受人としての指導対応や、出所前面談など、他機関と連携しながら対応しています。また、資料請求などもご連絡いただければ対応いたします。

★月曜～金曜 10:00～17:00

メールは24時間OK。 kobe.darc@gmail.com

神戸ダルクへのご献金・献品のご支援本当にありがとうございました。

開設から今日までをたくさんの方々に支えられてきたおかげで、仲間一同、回復のプログラムに取り組むことができています。心より感謝いたします。これからも暖かく見守ってください。

ご献金

NPO 法人全国薬物依存症者家族連合会様 NPO 法人愛知家族会様 遠藤恭子様 カトリック仁豊野協会様 生駒貴弘様
NPO 法人禁煙推進の会兵庫さんだ 大月勝様 大島一洋様 小島知子様 井出照光様 北園笑子様 伊佐将人様 佐藤喜美子様

ご献品

北村史恵様 福田和起様 菅原朋子様 特定非営利活動法人 健康づくり推進機構 BTB 岡部泰典様 泉谷エヴァ様 山崎圭様
(令和 2 年 2 月 1 日～令和 2 年 3 月 25 日到着分・順不同 ※購読料・支援会員費の方を含む)

寄付や献品のお願い

いつもご支援いただき誠に有難うございます。毎回のお願いで本当に心苦しく思いますが、神戸ダルクでは、最近メンバーが増え、みんな薬物が止まり始めると、ご飯を非常にたくさん食べます。節約して料理長がおいしいご飯を作ってくれていますが、お米がほとんどなくなってきました。

お米の献品がありましたら非常に助かります。

神戸ダルクでは、仲間の居場所としての寮・グループホームなどの設置に奮闘しています。そこで使うような備品がなかなか揃いません。ご家庭で余っている日用品や家電製品などもありましたら、ご連絡ください。特に 5 月から始まるグループホームの備品が揃いません。ご家庭で余っている食料品(米、野菜、乾物、味噌、醤油など)から洗濯洗剤やシャンプー、石鹸、などの日用品などがございましたら、神戸ダルクまでご献品ください。グローブ・自転車などもございましたら是非譲ってください。たくさんありましたら、車で取りに行くこともできます。

回復支援の中で、普通の家庭の様に安心して家族でご飯が食べられる様な環境はもっとも回復支援に役に立ちます。ご協力をよろしくお願いいたします。

ご寄付振込先口座 ゆうちょ銀行

口座番号 00950-9-275937

口座名 シヤ) コウベダルクヴィレッジ

店番 〇九九 〇275937

献品の送り先住所 651-0068 神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

編集後記

私たちを支えてくれるひとたちに、私たちが何を求めているか?というよりも、どうわかって欲しいか?というようなことをぼんやりと考える時が良くあります。仲間を支える私たちが支えられてというのも、普通の世界では滑稽な話かもしれません。ただ応援してくれるひと。嬉しいです。私たちのためと攻撃を仕掛けるひと。ありがたけれど悲しいです。俺たち、自分の足で立つことで真の成長をしていくんです。その言葉をわかってくれるひと、少なからず増えてきました。感謝です。

神戸ダルク ニュースレター Threshold (出発点) Vol.19

編集人 一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 梅田靖規

印刷 プリントバック

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

価格 1部 100円 年会費 2000円

(購読料は年会費に入ります)

発行人 関西障害者定刊行物協会

〒543-0015 大阪市天王寺区高田山町 2-2 東興ビル 4 階